



新潟県作業療法士会ニュース

朱 鷺

No. 3

祝！厚労大臣表彰

昨年9月25日（日）に日本作業療法士協会設立50周年記念式典が行われ、その中でこの度厚生労働大臣表彰を受賞された26名の方の授賞式典も執り行われました。

新潟県士会からは樋浦功先生と早川昭先生が受賞されました！長年にわたる臨床でのご活躍だけでなく県士会への多大なるご貢献に対し、改めて御礼申し上げます。

左から横田県士会会長、中村春樹協会会長と、
厚労大臣表彰を受賞された早川昭先生



次のページには受賞されたお二方から会員に向けたメッセージを頂いております

受章された先生方から会員に向けて

樋 浦 功

(燕労災病院)

作業療法士となって37年目を終えようとしている今、ずいぶん長い間、作業療法士をしているものだとあらためて感慨を深めています。1977年に新潟県作業療法士の会が発足したときの会員数は15名、私が国家試験に合格した1980年は確か24名が新潟県に勤務していたと思います。1985年の新潟県作業療法士会発足時は39名、そして現在、30年を超えて県士会員は1000名に迫る勢いです。新潟県士会が大きく発展したからこそ、日本作業療法士協会設立50周年に当たって、厚生大臣表彰をいただくことができたのだと、大変光栄に思っています。経験ばかり長く、あまり学術的な貢献はできていませんが、臨床活動と並行して多くの時間を新潟県士会の運営に関わり、長く役員を務めさせていただきました。多くの先輩方や、仲間の方々の支えや助けを受けてのことですが、県士会の社団法人化、一般社団法人への移行などの仕事を評価していただいたものと、嬉しく思います。これまでの臨床、県士会活動を通してご支援、ご指導をいただいた皆様に、感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも作業療法に励みたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

早 川 昭

(ながおか医療生協ながおか診療所)

この度は、協会設立50周年に際して厚生労働大臣表彰の栄誉を賜り、関係各位の皆様方に心から感謝申し上げます。

作業療法士養成校に入学してから38年になります。

養成校時代の諸先生、先輩、同級生の方々から沢山のことを教えていただきました。また、初めての臨床現場・総合実習時の先生方や諸先輩、臨床に携わってからの初めて担当した患者さん、それら多くの方々からの何気ない、胸に突き刺さりその時には意味不明で何年か経過した後になりやっと私なりに理解できた、その時の感触が今も活き活きと生きている、そのような言葉が此処にあります。

これら多くの方々の言葉とその背後にある思いによって、支えられ・強められ、何とか作業療法に関わる責務をここまで続けてこられたことに心から感謝申し上げます。ありがとう御座いました。

これからも身体の続く限り、これらの言葉・思いを大切に、挑戦し又学ばせていただいたことを後輩に伝えたいと念じています。

人間作業モデル講習会のご案内

- 日 時** 2017年4月15日(土)・16日(日) 9:00～17:00 2日間
- 場 所** 新潟医療福祉大学 (〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地)
- 受講料** 当学会会員 8,000円 非会員 11,000円 学生・大学院生 3,500円
- 講 師** 山田 孝 目白大学大学院リハビリテーション学研究科教授
石井良和 首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授
- 内 容** 人間作業モデルの理論、評価法概説、ランダム化比較試験による効果研究など
- 申込期限** 2017年4月5日(水)
- 申 込** E-mailのみで承ります。件名は「人間作業モデル講習会＜新潟会場＞参加申込」とし以下の事項をご記入の上、お申し込みください。
- 事 項** ①氏名 ②日本作業行動学会の会員・非会員の別
③学生の場合は学校の名称 ④所属施設名 ⑤所属施設の郵便番号と住所
※PDFの添付ファイルお受け取りできるアドレスからお申し込みください。

申込 および お問い合わせ先

〒431-2102 静岡県浜松市北区都田町1230 常葉大学 野 藤 弘 幸

TEL&FAX 053-428-1238 (直通) E-mail: hnoto@hm.tokoha-u.ac.jp

福祉・労災指定
各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017
新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
<http://www.gtb-niigata.jp/>

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
新潟営業所 TEL 025-284-6866

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号



(株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11

TEL 025 281-0303

FAX 025 281-0339

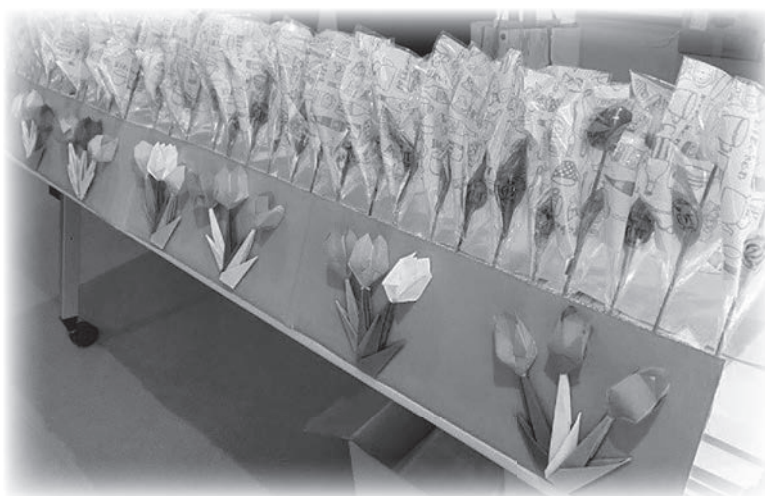


第23回公開講座の活動報告と「実家の茶の間・紫竹」への OT派遣事業について

公開講座企画実行委員会 大谷内 和 幸
岩室リハビリテーション病院

日本作業療法士協会設立50周年記念事業として平成28年11月20日（日）に公開講座を開催しました。今年のテーマ「地域包括ケアシステム～みんなでつくる支え合いの仕組み～」では、小野秀之氏（新潟市福祉部地域包括ケア推進課課長）、河田珪子氏（支え合いのしくみづくりアドバイザー・実家の茶の間代表）を講師にお招きしました。当日は、新潟ユニゾンプラザにて、106名の方々にご参加頂き、大盛況となりました。

参加者への記念品を手作りの物にしたいと考え、新潟県作業療法学会時にブースを設け、プラ板や折り紙でチューリップを作成しました。おかげさまでとても好評でした。また、新潟市地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」の見学ツアーを企画し、4日間で11名に参加して頂きました。この場をお借りして、県士会員の皆様にはお礼申し上げます。



このような活動がきっかけとなり、新潟市から地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」への作業療法士の派遣の依頼があり、現在取り組みを始めています。今回は、「実家の茶の間・紫竹」のご紹介をさせていただきます。

「実家の茶の間・紫竹」は、平成26年10月から東区紫竹の空き古民家を活用し、河田珪子氏が代表を務める任意団体の「実家の茶の間」と新潟市が、地域包括ケアシステム構築の為のモデル事業として、協働で運営しています。毎週月・水曜日の10時～16時までの間、自由に参加が可能で、参加費300円・食事代300円（子ども無料）とし、毎回30～40人程の参加者でにぎわっています。高齢者が中心ですが、保育園児の来訪や小学生の姿も多くみられ、誰もが気軽に集える居場所となっています。

1日の活動は、12時～13時までを食事の時間、14時をラジオ体操の時間とし、それ以外はプログラムが決まっていません。お茶を飲みながらの談笑、折り紙、オセロ、ビー玉ゲーム、習字、織り機、庭仕事、大工仕事、昼寝、学校の宿題など、参加者が自発的に活動しており、賑やかさと温かさが共存するゆったりとした居心地の良い場となっています。また、座席は固定せず、あえてテーブルの配置を毎回変える等、参加者が上手く散らばる配慮や戸を開けた時に視線が集中しない為の仕掛けが施されています。

「実家の茶の間・紫竹」の主なルールは3つ。「あの人誰という目つきをしない」「プライバシーを聞き出さない」「その場にいない人の話をしない」と書かれた紙が、目のつく所に貼られています。ここでは、サービスの受け手はおらず、「場」の利用者がお互いに支え合う事を強調しています。「人と人が知り合いになる場」「自然に手を貸し合うような場」「何もしなくても、孤独感を味わうことのない場」といった支え合える仕組みによって、その地域で歳を重ねる事への不安は楽しみへと変わります。

新潟市では、このような地域の拠点となるモデルハウスを市内全区に開設する計画を進めており、現在東区の他に秋葉区、西蒲区、南区にオープンしています。

新潟市地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」への作業療法士の派遣依頼を受け、平成29年1月より毎月1回（第2水曜日）、13時30分～15時30分の2時間、活動提供を行うことになりました。この活動で作業療法士に求められることは、「実家の茶の間」に通う1人1人の生きがいに結びつく“作業”を引き出すことです。作業療法士の視点と技術は、対象者の生活を「人・環境・作業」の複合的視点から捉えることが可能です。好きなことや得意分野で茶の間で過ごす、自分の役割をみつ



て茶の間づくりに貢献するなど、自分の居場所を見つけ、生き生きと過ごせる場所となるには、「生活の視点」を活かした適切なアドバイスが必要です。個々の“～したい”を引き出すことで、生活機能が低下しても再び元気になれる可能性があります。病院や施設で関わる対象者とは異なり、医師の指示はなく、フェイスシートもありません。「実家の茶の間」に参加して、時間を共有することでお互いを知り、親しくなる中で相談を受けた時に作業療法士としての専門性が発揮されると思います。

「実家の茶の間」の活動は、新しい総合支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の一般介護予防事業「地域リハビリテーション活動支援事業（住民運営の通いの場）」に該当し、今後、リハビリテーション専門職の活用が求められます。新潟市地域包括ケア推進モデルハウスは、新潟市全区に整えていく方針であり、全ての「地域の茶の間」に作業療法士を派遣する方向で進んでいます。地域における助け合いの拠点が地域包括ケア推進モデルハウスであり、今後地域を支える大きな可能性を秘めた場所だと思います。

最後に、今回、公開講座の報告と「実家の茶の間・紫竹」への参入までの経緯をご紹介します機会を設けて頂き深く感謝申し上げます。

車椅子の紹介

介護老人保健施設 越南苑 原 周 平

今回は、MIKIの「ノンバックブレーキ車椅子 とまっティ」を紹介します。

この車椅子は、通常の駐车用ブレーキの他にノンバックブレーキシステムが搭載されています(図1)。もしブレーキをかけ忘れて立ちあがってしまった際にも自動でブレーキが作動し、後方発進による事故や怪我を防ぐ、または軽減することができるという車椅子です。

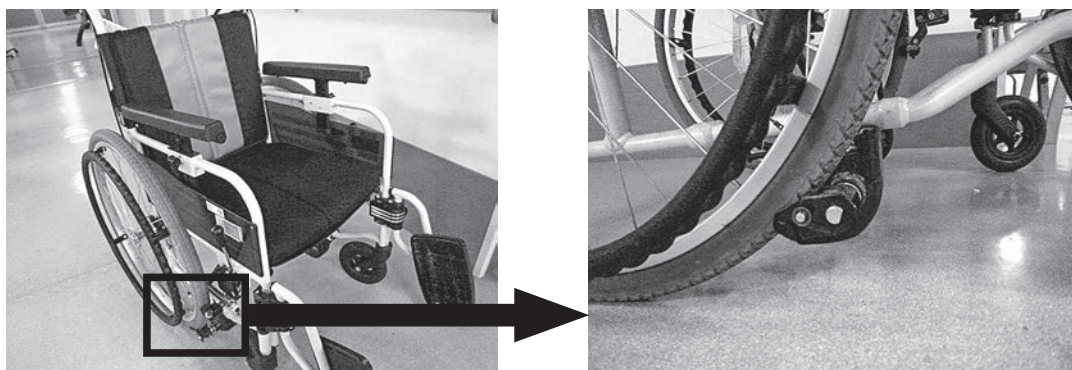


図 1



図 2



図 3

座面下部にローラーがあります。座面に体重がかかっている状態ではローラーが押され、ブレーキが解除されます(図2)。そこから重さが無くなるとローラーが元の位置に戻り、自動でブレーキがかかる仕組みになっています(図3)。

注意点として、ノンバックブレーキシステムは万一に備えた装置なので、通常の車椅子と同様に正しく駐车用ブレーキをかける必要があります。

実際に利用者に使用していただいておりますが、ブレーキをかけ忘れて立ち上がってしまうことが多い方でも、転倒事故につながる事が無く、安全に過ごしていただけています。危険認識の乏しい方に対する環境調整の一つとして検討していただけたら良いと思います。

施設紹介のページ



みどり病院訪問リハビリテーション

中山 友里

こんにちは！みどり病院訪問リハビリテーションです。介護老人保健施設緑樹苑内に事業所を構え、PT 3名・OT 2名・ST 2名で訪問事業を行っています。拠点が新潟市鳥屋野湯の近くにあるため中央区を中心に訪問していますが、遠くは西区の信濃町や江南区割野・東区では新石山まで訪問することもあります。毎日の移動距離は平均で3～40km。そのためスタッフそれぞれが車を使って訪問しています。



施設紹介ということでお話をいただきましたが、今回は事業所で行っている取り組み『3分掃除』について紹介させていただきたいと思います。

私たちは毎朝始業と同時に音楽をかけながら3分間、全員で事業所内の掃除を行います。小さい部屋（12畳位）なので全員で一気に始めるといつもの場所の掃除はあっという間です。3分は意外に長く、毎日様々なところが掃除され、書類棚や冷蔵庫の中も清潔そのもの。まだインフル罹患者を出していないのはこの掃除が功を奏していると言っても過言ではありません。

各々好みの音楽を流して3分を管理するmusic係（2週交代）のセンスも問われますが、お互いの音楽の好みも知ることができ、自然に会話はずみです。

始業が8：30ですが、早いスタッフは40分頃には事業所を出発してしまい、夕方まで一度も顔を合わせない…ということもあるのですが、この3分の掃除時間がいいコミュニケーションの場になっています。

一部複数担当制をとるなど、より質の高いサービス提供ができるようあれこれ工夫し運営をしておりますが、毎日ミーティングを行うといったほかにもこのような小さなコミュニケーションの機会がチーム力向上の一助にもなっていると感じています。

倫理委員会からのお知らせ

新潟労災病院 岩片 淑江

倫理について考えることはありますか？

日常の業務の中で意識することはあまりないことかもしれませんが、少しだけ関心を持ってみましょう。協会のホームページに「倫理要綱」「職業倫理指針」が掲載されています。是非目を通してみてください。

また、県士会でも倫理に関する相談窓口を開設しています。

相談者の秘密は守られ、公開はされることはありませんので、安心してください。

些細なことでも構いません。相談方法は、報告書（フリースタイル）または電話にてお願いします。

相談窓口

新潟労災病院 岩片 淑江（いわかたよしえ）

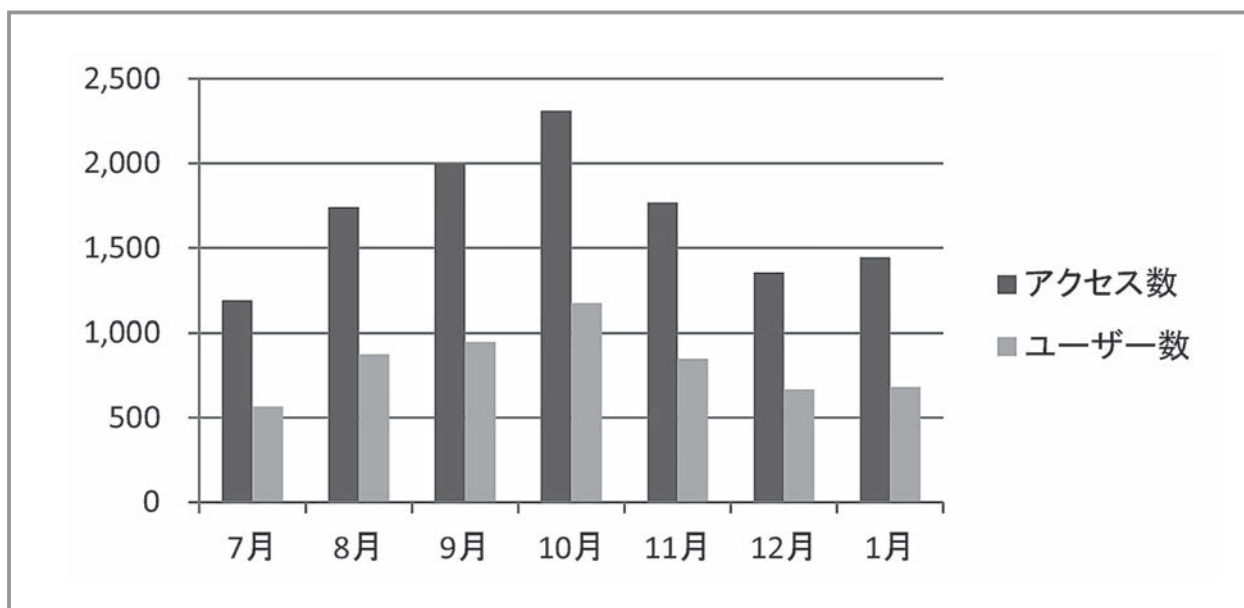
〒942-8502 上越市東雲町1-7-12 TEL 025-543-3123

ホームページ委員会からのご報告

昨年7月から県士会ホームページサイトをリニューアルしました。新しいサイトを作るにあたっては旧サイトよりも見やすく会員の皆様にとってより使いやすいものになるようにと考えてきましたが、いかがだったでしょうか？この半年間の報告をこの場を借りて簡単にさせていただきたいと思います。

下のグラフはリニューアルしてから現在までのアクセス数とユーザー数です。ユーザー数は接続した端末（PCやスマートフォン）の数なので純粋な人数とは異なりますが、おおよその来訪者数とお考えください。アクセス数は延べ人数といったところでしょうか。8月以降アクセス数とユーザー数が増えているのは10月に県学会があったからだと思いますが、現在の県士会会員数（930余名）を考えると、ピーク時の10月くらいの数字が1年を通して続けられるようにしていきたいと考えています。月間ユーザー数1,000名、アクセス数4,000件（各1回／週のアクセス）が将来的な目標です。

もちろんそのためには皆様が見たい、あるいは困ったら県士会のホームページを開けばいいんだ、と思っていただけるようなサイトにしなければなりません。次年度に向けてはすでにいくつかの改訂を計画していますのでご期待ください。



SAKAimed

急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel : 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

50th JAPAN
日本作業療法士協会
設立50周年

「これからも あなたと共に 作業療法」

平成28年度 第7回理事会 議事録

日 時：平成28年10月22日（土）13：30～18：30

会 場：燕労災病院 第3会議室

出席者：横田、児玉、四方、石井、尾崎、片桐、菊入、
北上、小山、佐藤、高頭、能村、松本、村山、
吉井（以上理事）、本間（書記）

〈報告事項〉

- ・事務局より、公益目的支出計画変更申請・完了の報告があった。

〈協議事項〉

○会員管理（事務局）

入会8名、退会0名、復会0名、休会1名

⇒ 承認会員数945名（休会56名含む）

○SIG申請について（佐藤理事）

新潟精神科リハビリテーション研究会 ⇒ 承認

○表彰委員会・表彰規定変更（事務局）

→協会との整合性等も含め再度検討していく

○公益法人移行・進捗（事務局）

平成30年度移行を目指し、申請作業を会計事務所に委託。見積り費用¥432,000 ⇒ 進めていく旨承認

○県士会・定款の改正について（事務局）

・第3章第5条(1)正会員 この法人の事業に賛同して入会した作業療法士であって、新潟県内に勤務し、または、在住している者。を“正会員 この法人の事業に賛同して入会した日本作業療法士協会会員であって…”に変更してはどうか。

⇒第3章第5条(1)に原則を入れ、“原則日本作業療法士協会会員であって…”とする。⇒ 専門家を交えて検討していく。

●財務関連

○H28年度中間決算報告書（9月30日最終）を確認した。

- ・収入の部
会費収入：未納者68名については督促状送付。
- ・支出の部
事業費：執行率47.40%
管理運営費：執行率45.47%

○地域包括ケアシステム推進事業 補正予算

・地域支援やりハ連絡協議会関連の会議費・交通費が必要となった。補正予算合計¥1,495,955

⇒ 承認

○旅費交通費規定改定について

- ・総会時の運営スタッフへの旅費交通費支払いが各委員会で対応に差異があった。
- ・旅費交通費規程（旅費交通費の計算）第4条3項各委員会の会議開催時および研修会当日に請求が可能で、社員総会時は運営側の委員にのみ支給する
⇒ 規定を変更し、次年度より予算に計上する。

○県士会主催研修等講師等の謝金・交通費規定について

- ・現在の講師謝礼金規定表
⇒区分Bに認定・専門作業療法士を追加する ⇒ 承認

・講師等謝金について

⇒講師の基準：講演・講義の講師、シンポジスト、パネリストは講師謝金規定に基づき支払いを行う。

*ただしMTDLP事例検討ファシリテーターは事例発表者数（1人当たり45分）×¥1,000（最大¥8,000）と昨年度理事会で承認された。

・座長について、口述発表等の座長、ファシリテーターの場合、交通費と日当（運営委員相当）を支給。 ⇒ 承認

●次年度事業計画骨子について

平成29年度県士会事業方針・重点項目案を確認した。

1) 公益法人移行準備

（H29.5総会時、新定款承認 H30.4公益法人移行を）

2) 会長交代・新体制準備

（4期満了会長退任 新会長擁立 三役新体制準備）

3) 地域包括ケアシステム推進

（人材育成・協力体制・MTDLP指導者）

4) 活動と参加に向けた支援のできる作業療法士の育成

・MTDLP関連の意見あり：医療現場では関わる期間が短く、機能回復・疾病回復に傾倒しがちなうえ役割が明確化されており、地域に出る機会もない。MTDLPの研修で縦の流れ（急性期～生活期、医療～介護）で活動・参加に焦点を当てた検討ができるのではないかと。→支部or医療圏域ごとにキーワードを“活動と参加に向けた支援”として研修を行ってはどうか。

5) ICF・MTDLPを用いた他職種連携の促進（ツール開発）

6) 大規模災害への備え（支援体制・人材育成）

7) 会員の学術的研鑽の促進

（県学会・全国学会・生涯教育・認定・専門・学術誌）

8) 在宅会員の活用の取り組み

（再就職支援プログラム・地域支援事業紹介）

9) 新入会促進の取り組み

（学生会員制度導入・非会員入会の働きかけ）

以上

入会、会員情報変更の届けはお早めに

まだ、入会届を出されていない方、所属先の変更があった方は、早急に事務局に届けください。
ご注意!!

入会届…郵送のみ可。会員情報変更…FAX可。

作業療法のちから ～叶える可能性～

～ 介護老人保健施設いっぷく・通所リハビリつくしんぼデイケアより ～

当施設のデイケアに通所している方々が作った作品です。図柄はぶどう・フクロウの絵を描き、お花紙を丸めたり・棒状にしたりした後、一色一色全体のバランスを考えてお花紙を一つ一つ貼りました。枠はラップの芯を切り、油性マジックで色を塗りました。

完成した作品は、作業活動を知ってもらう機会として、小学校の文化祭に展示してもらい、現在は通所内のホールに展示しています。



- ・ お花紙を細かく丸めて貼る作業が大変でした。
- ・ 下絵の色と枠の色の全体のバランスを考えることが大変でした。
- ・ お花紙を丸める作業は手先の力が必要で良いリハビリになりました。
- ・ デイケアに来た時に作品を通して褒められる・頼られることが嬉しかったです。

皆さんもこのページに日々の作業療法の成果を掲載してみませんか？Activityによる作品だけでなく利用者様との思い出の写真等でもOKです！少しでも興味のある方は下記の連絡先まで!!（次回発行は6月末頃を予定しています）

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No. 3 2017年3月15日発行

発行責任者：横 田 剛

編集責任者：尾 崎 生

発 行：一般社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社タカヨシ